

〈北部地区（北九州・筑豊地区合同）研修会報告〉

水墨画に挑戦！

北筑・小倉西高校 森口 真由子

「今日は暦の上では冬ですね。」

秋晴れの立冬（十一月八日水曜日）の午後、遠賀高等学校書道教室。講師の姚明先生は笑顔で示範を始めました。

実は姚先生とは福岡教育大学の同期です。卒業以来数十年ぶりに同じ空間で筆を執りました。昔と変わらず優しい笑顔で、書くことを楽しんでいる姚先生を見ると、大学時代に戻ったような感覚を覚えました。そしてあつという間の二時間が経過していたのです。

各自、半紙に書く程度の筆（硬め）と小筆を数本準備し挑戦です。まずは基本「竹」を書くことから。筆に水を含ませ、毛先に墨をつけ平皿でなじませる。滲まない紙に下方から側筆で「シュ！シュ！シュ！シュ！」とリズムよく上へと筆を運ぶ。墨のグラデーションがきれいに描かれます。水と墨のなじませ方が悪いとグラデーションが出ず、調整が難しい。数本の竹を描くと、次はそこから出ている枝葉を描く。枝は細くリズムよく、葉は右に左に広がっていきます。姚先生が一人一人にアドバイスをしてくださったので、それぞれの課題が見えてきました。先生方も勢いよく最初から立って書かれる方、しばらく試案の後ゆっくりと書き始める方など様々でした。その後、「ひよこ」の書き方を示範され、その手からさらさらとかわいいひよこが生まれていきます。

「紙の中に物語を描きましょう。」と言いながら竹の葉から滴り落ちる

水滴を飲もうとするひよこが描かれました。

「想像を膨らませ描く。」書の制作にも通じることだと思いました。最後に蓮を描く方法をご指南頂き、各自色紙に好みの題材を描いて終了。短い時間ではありましたが、充実した貴重な時間となりました。

姚先生には制作の楽しさを改めて教えていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。そして準備に携わって下さった先生方のご尽力に感謝申し上げます。

